

ごあいさつ



教育長
金子 智雄

豊島区立千川中学校は、世界保健機構（WHO）が推奨する国際ナショナルセーフスクール（ISS）の国際認証の取得を目指し、生徒・教職員・保護者・地域住民が一体となり、安全・安心な学校づくりに継続的に取り組んできました。

池袋中学校に次いで都内中学校では2校目、豊島区では10校目の国際認証取得校の誕生となります。さくら小学校と千川中学校の認証取得により、豊島区では各中学校ブロックに1校以上の国際ナショナルセーフスクールが配置されます。今後、区内全小・中学校の安全・安心な学校づくり、地域と共にある学校づくりの基幹校として、ますます充実した取り組みが推進されますことを期待しております。

昨年度は、長期にわたる臨時休業や様々な活動の制限により、生徒の生活にも大きな影響が生じました。特に、運動機会の減少により学校でのけがが発生件数も多くなりました。千川中学校の保健委員会は、けがが増加し

ていることに気づき、けが予防の啓発活動キャンペーンに取り組むなど、自分たちの課題に対してアイデアを出し合い、工夫された活動を展開されました。生徒自身が主体的・積極的な活動を展開するISS活動は安全・安心な学校づくりと深い学びの実現へとつながっていくものと確信しています。

また、地域の消防団の方や池袋消防署の方に教えていただき訓練を継続している防災ジュニアスタッフの活動は、単にD級可搬ポンプの操作法やAEDの操作法の習得に終わることなく、地域の担い手としての成長につながっているものと確信しています。

最後に「子供たちが安全・安心な学校生活を送れるようにすることは、地域の大人たちの役割」との地域対策委員会の力強いご支援により、取り組んできた安全・安心な学校づくり、まちづくりが評価され、国際ナショナルセーフスクール認証を取得されることを心より祈念するとともに、関係者の皆様のご尽力に心より感謝申し上げます、あいさつの言葉とします。

ごあいさつ



校長
永野 祥夫

朋有小学校が区内で初めて国際ナショナルセーフスクール（ISS）の国際認証を取得してから9年目となります。本校が認証取得することにより全中学校区に1校以上のISS認証校が存在し、ISSのネットワークシステムが構築されることとなります。

本校ISSの取り組みは、生徒の主体的な活動が中心に進められてきました。特に、各専門委員会活動でのISS活動はとても優れた活動であり、本校の「誇り」でもあります。放送委員会の「昼休みのクラシック音楽の放送」活動を筆頭に、各専門委員会の調査活動など、学校生活をより安全・安心に過ごすための手立てがたくさん計画され、継続して取り組んでいます。

認証取得後は、本校の連携校である要小学校・高松小学校の両校と共に、ISS活動の理念を共有し、安全で安心な教育活動の実践に取り組んでいきたいと考えています。また、本校PTA会長を中心にPTA本部役員による挨拶運動を進めながら、生徒の見守りをはじめ、地域の防災の拠点としての本校の特色である「防災ジュニアスタッフ」の活動など、今後も様々な地域活動にシフトを移していければと考えております。

現在豊島区では、未来都市としまを掲げ「としまSDGs未来都市宣言」を強力に押し進めています。本校のISSの取り組みには、このSDGsの理念である「誰一人取り残さない」社会の実現の土台となる、安心で安全な学校生活を継続するための大切な活動が組み込まれています。今後は、SDGsの活動にISSの取り組みをリンクさせながら、更なる安心で安全な学校生活の確立と、持続可能な地域社会への貢献に取り組む所存です。

ごあいさつ



PTA 会長
丸尾 悟子

千川中学校では2年前よりISSの取り組みが始まり、子どもたちの意識も少しずつ変わってきたようです。

安全・安心はすぐに得られるものではなく日々の積み重ねで得られるものであり、周りの大人たちが用意し与えるものではなく、子どもたちが作り出すものだと思います。

そして学校の中だけではなく、子どもたちの住んでいる地域も安全・安心であるためには、学校と地域との交流も必要です。

千川中学校PTAは、地域との交流を深め、学校内でのあいさつ運動に参加し、夕方の地域パトロールや祭事の際のパトロールをするなど子どもたちと寄り添える活動を行っております。

コロナ禍を経て、安全安心がどれだけ大事なことが再確認できた今こそ、更なるISSを目指して、PTAをはじめ保護者の皆さまと一体となり、あたたかい学校づくりを目指していきたいです。

ごあいさつ



ISS 地域対策委員長
作本 恒美

千川中学校が豊島区で10番目となる国際認証取得の最終的段階になりました。

7月に日本セーフコミュニティ推進機構の白石陽子先生を審査員としておいでいただき、豊島区教育委員会金子智雄教育長にも臨席いただき、事前審査が行われ、生徒たちも真剣に取り組んでおります。

令和5年より校舎の建て替え工事も始まり、完成後はいよいよ新校舎同様に新しい気持ちでISSのスタートとなります。

いつ何が起こるか予測もつかない世の中ですが、中学3年間はできる限り良い思い出づくりが、将来に役立つときであってほしいと願っています。

学校・地域・家庭が一体となって、生徒たちがいかに楽しい学校生活を送れるか、三者が情報交換を交わしながら協力していかなくてはなりません。町会・保護司会・民生児童委員会・青少年育成委員会・消防団・保護者・学校など各種団体などの協力は不可欠であります。

千川中学校の校訓である「信・望・愛」、この精神に基づく相手に対しての優しさがもてる人間になってほしいと思います。関係者・地域の皆様には、今後ともご指導よろしく願いいたします。

目 次

第 1 章 豊島区立さくら小学校の概要	
1	
1 校名、校章、教育目標	
2 学校の規模等	
(1)学級数、児童数	
(2)学級数、児童数の推移	
(3)教職員の数	
3 学校の日	
4 地域の状況	
(1)地理的背景	
(2)交通の状況	
第 2 章 インターナショナルセーフスクールの取組	5
第 3 章 けがの発生状況	6
1 身体のけが	
(1)学校でのけが	
(2)登下校でのけが	
2 心のけが	
第 4 章 重点的・優先的に取り組む問題点	13
第 5 章 8つの指標に基づいた取組	14
指標 1：協働を基盤にした安全向上に取り組む運営基盤が整備されている	
1 インターナショナルセーフスクールの推進組織	
2 校内の ISS 推進組織	
(1)児童の組織（ISS 委員会・児童会各委員会・各学級）	
(2)教職員の組織	
指標 2：セーフスクール推進組織とセーフコミュニティに基づいた地域の 推進協議会によって決定されたセーフスクールの施策がある	16
1 文部科学省の政策「第 2 次学校安全の推進に関する計画」	
2 東京都教育委員会の施策	

3	豊島区の施策	
4	豊島区立さくら小学校の方針	
指標3	両性・全年齢・環境・状況をカバーする長期的かつ継続的なプログラムを実施している	19
1	環境改善	
2	規則・ルール・人間関係づくり	
3	啓発・教育	
指標4	ハイリスクのグループや環境を対象としたプログラムを実施している	24
1	身体のけがのハイリスクに対する取組	
2	心のけがのハイリスクに対する取組	
指標5	全ての取り組みは根拠に基づいて行われている	25
(1)	ケガマップの作成、掲示、活用	
(2)	体育授業でのけがゼロ運動	
(3)	給食のおしゃべりゼロ運動	
(4)	「さくらしぐさ」「さくらルール」の実践	
(5)	看護当番等による見回り	
(6)	校内危険箇所ゼロ運動	
(7)	校内消毒、並び方マークの表示	
(8)	学区域危険場所調査	
(9)	PTA・地域の見守り活動	
(10)	PTAによる安全マップの作成・配布	
(11)	教職員・PTAのあいさつ運動	
(12)	外部機関との連携	
(13)	総合防災訓練	
(14)	遊び場所の指定	
指標6	外傷の発生頻度や原因などを記録するプログラムがある	32
1	校内におけるけがの記録	
指標7	学校政策、プログラム及びそのプロセスが変化したことによる効果を評価する方法がある	34
1	プログラムの進行管理	
2	対策と成果指標	
指標8	国内・国際的なネットワークへ継続的に参加している	36

第1章 豊島区立千川中学校の概要

1 教育目標

豊島区立千川中学校は、昭和22年に新制中学校として創立しました。今年度で、創立74年を迎えました。特徴ある「泰山木（たいさんぼく）」の木は、本校のシンボルとして、生徒会新聞の名前にも使われています。

本校の教育目標、校訓は以下の通りです。

教育目標

明日をになう人間性豊かな生徒を育成するために次の教育目標を定める

- 一 深く考え、自ら学ぶ生徒
- 一 心あたたかで、礼儀正しい生徒
- 一 健康で、たくましい生徒

校訓 ～信・望・愛～

- <信>信頼し信頼される誠の人になろう
- <望>明日に向かって全力をつくす人になろう
- <愛>人を愛する勇気ある人になろう

【校章・校旗の由来】

校旗は臙脂の地に銀色の校章を象り、中央に三本線を入れ、旗地の四方に金糸を飾りつけたものである。中央の三本線は、千川上水のの流れを表している。また、校章の中央は千中の文字で、まわりの三重の輪も川を象徴したものである。

千川上水は、江戸時代から住民の生活をうるおし、その桜並木は四季に趣きをそえ、多くの文人墨客の愛でたるところであった。千川の流れの絶えることなく、悠久に人々の生活の基本を培い、平和な殿堂として文化がいっそう栄えるようにと、願いを込めて作ったものである。

校章



校旗



2 学校の規模

表1-1 教職員数

職	人数	職	人数
校長	1	時間講師	1
副校長	1	区栄養士	1
主幹教諭	3	都事務職員	1
主任教諭	7	校務支援員	1
教諭	6	スクールカウンセラー	1
主任養護教諭	1	用務主事	3
特別支援教育専門員	1	スクールサポートスタッフ	1
時間講師	1	計	31

表1-2 在籍生徒数

	2019年度			2020年度			2021年度		
	男子	女子	計	男子	女子	計	男子	女子	計
1年生	42	36	78	36	42	78	39	37	76
2年生	38	24	62	41	38	79	37	43	80
3年生	23	28	51	40	25	65	40	38	78
計	103	88	191	117	105	222	116	118	234

- ・近年は2010年頃をピークに毎年生徒数が減少
- ・この3年間は生徒数が増加傾向
- ・外国籍生徒が多い。

3 地域の状況

図 1-1 学校の周辺図

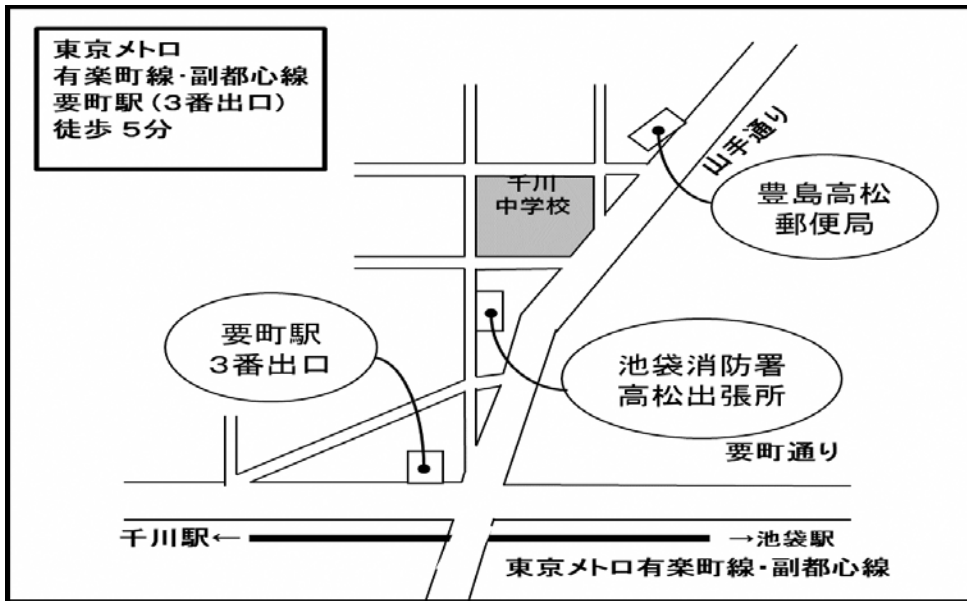


図 1-1 東日本大震災時(2011. 3. 11) の池袋駅

- 交通に関する状況
 - ・ 幹線道路山手通りがある。
 - ・ 学校周囲の道幅は狭いが交通量が多い。
 - ・ 消防署が近くにあり、消防車や救急車の通行も多い。
- 治安に関する状況
 - ・ 不審者に関する情報・報告は年間 2～3 件。犯罪被害はない。
- 自然災害に関する状況
 - ・ 交通機関が止まり、道路も大渋滞となる。
 - ・ 平日・昼間には、多くの労働年齢層が不在となる。
 - ・ 地域には高齢者が多い。
 - ・ 避難や救護のために、中学生が頼りされている。

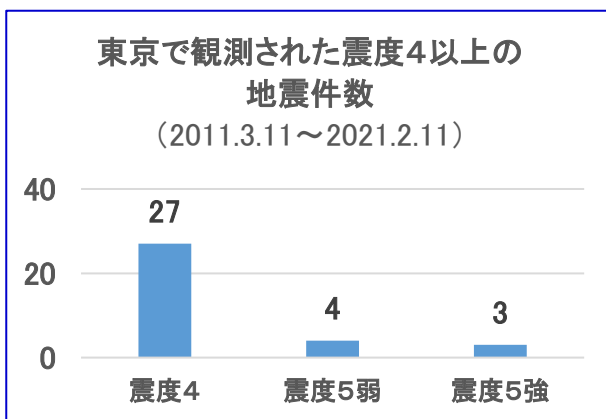


図 1-1 「気象庁地震データベース」より

第2章 インターナショナルセーフスクールへの取り組み

1 取り組みの背景

本校は1947年に1年5学級、2年2学級、3年1学級、生徒数398名で開校されました。

近年、生徒数は減少傾向にあります。校舎は70年以上前からほとんど形を変えず、伝統校の重みを感じさせますが、老朽化も進み、危険と思われる箇所もあります。現在、校舎新築に向けた準備が進められています。

このようないくつかの課題と目標を見据え、生徒が安全で安心して登校できる学校を目指し、2019年5月20日にインターナショナルセーフスクールへの取組みを宣言しました。

2 これまでの取り組み状況

年 度	本校の取り組み	国内の取り組み	生徒主体の取り組み
2019 年度	ISS 取り組み宣言 教職員 ISS 研修会 防災ジュニアスタッフ訓練 ISS 地域対策委員会 ISS ゾーン設置 スケアード・ストレイト	池袋本町小学校 ISS 現地審査参加 厚木市立清水小学校 ISS 現地審査会参加 豊島区 ISS 合同認証式 参加	生徒 ISS 取り組み 宣言 生徒 ISS 委員会 発足 ISS 委員会(毎月) ISS スローガン決定 朝の挨拶運動
2020 年度	防災ジュニアスタッフ訓練 ISS 地域対策委員会 デートDV 研修会 広報紙 「セーフスクール千川」 発行 除菌ボランティア発足		ISS 委員会(毎月) 各委員会 ゼロストップ運動
2021 年度	ISS 事前審査会 (白石先生来校)	秩父市立第二中学校 ISS 再認証審査会 オンライン参加	ISS 委員会(毎月)

第3章 校内でのけがの発生状況

1 軽微なものを含むけがの発生状況（「保健室データ」より）

校内で発生したけがは「保健室データ」として収集をします。

図 3-1・2 身体のけが けがの発生件数①（年度による発生件数の推移）

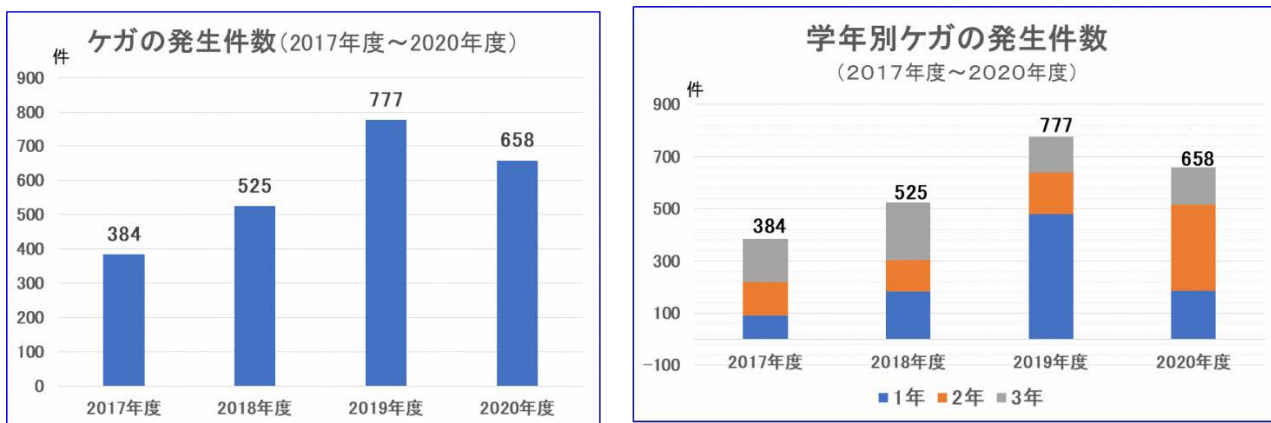
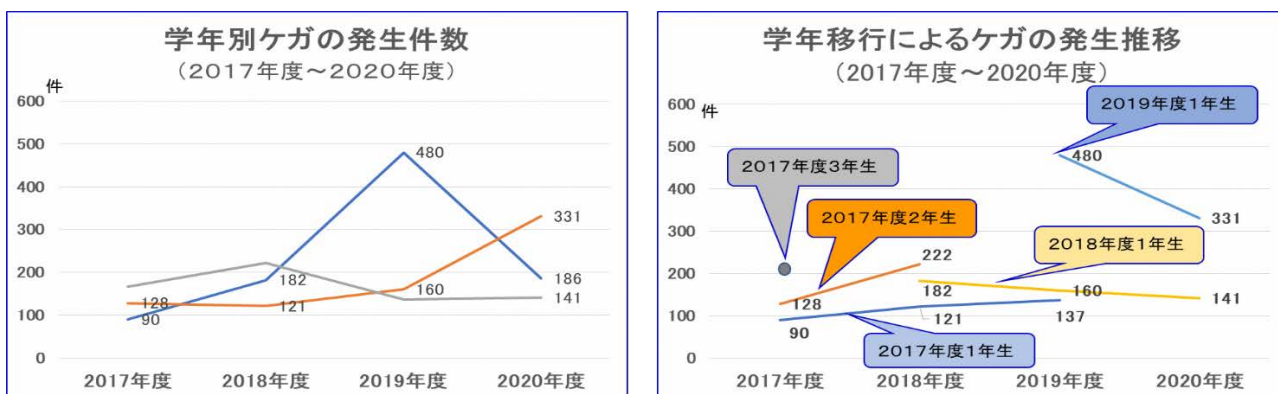


図 3-3・4 身体のけが けがの発生件数②（学年別発生件数）



※ 2019年度は1年生のけがが多発しました。そのため、例年に比べてけがの発生件数が増加しています。

図 3-5・6 身体のけが けがの発生状況③（月別発生件数）

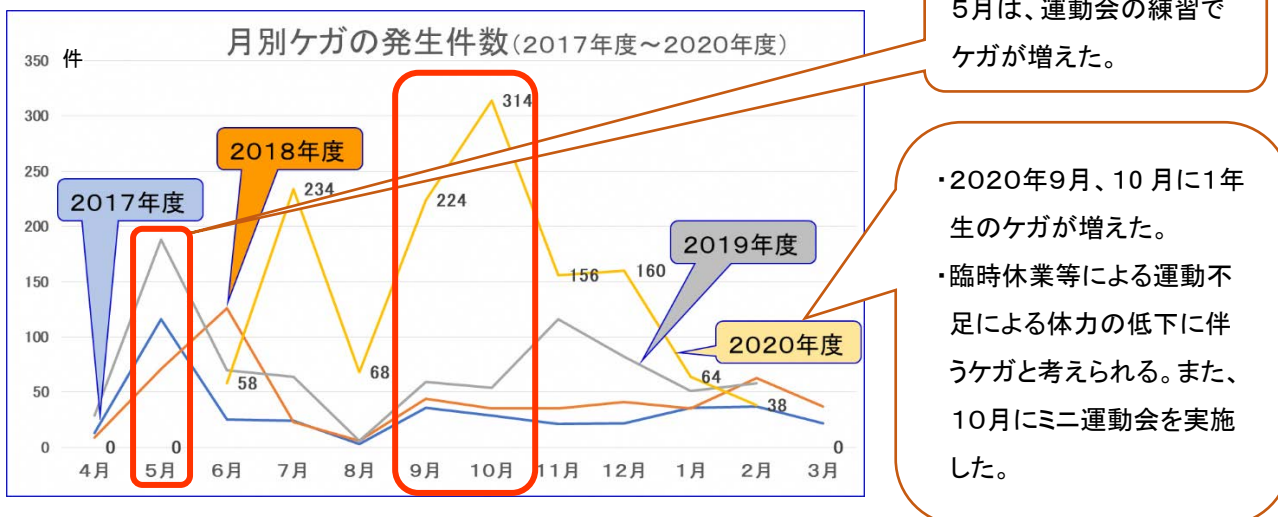
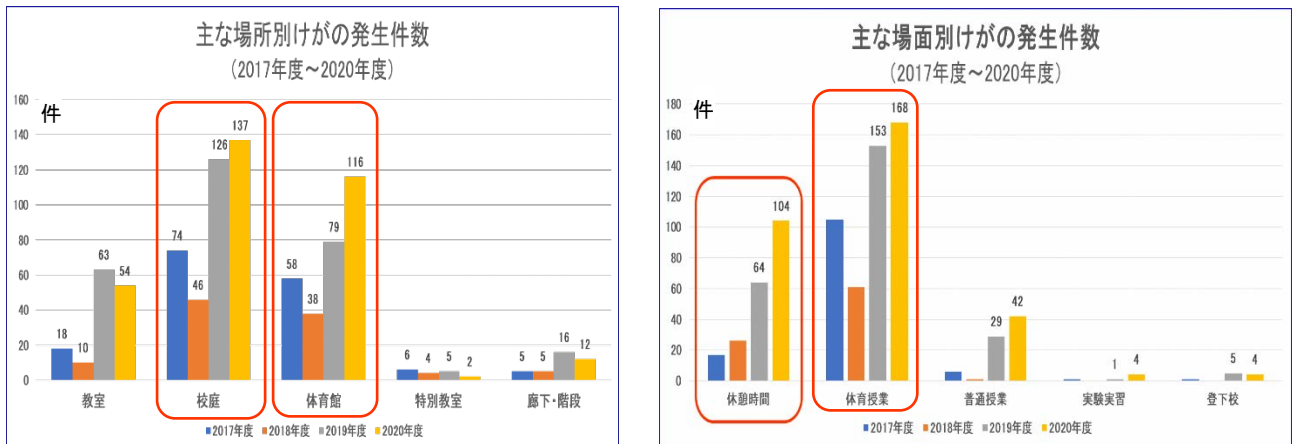


図 3-7・8 身体のけが けがの発生状況④（主な場所別、場面別発生件数）



体育授業や昼休み等の休憩時間に、校庭や体育館で身体活動をしている際にけがが発生することが多いです。2020年にけがの発生件数が例年に比べて増加した原因は、新型コロナウイルス感染症の影響により自宅で過ごす機会が増え、運動不足のために生徒の体力が低下していたことが考えられます。

図 3-9・10 身体のけが けがの発生状況⑤（主な場所・場面発生件数）

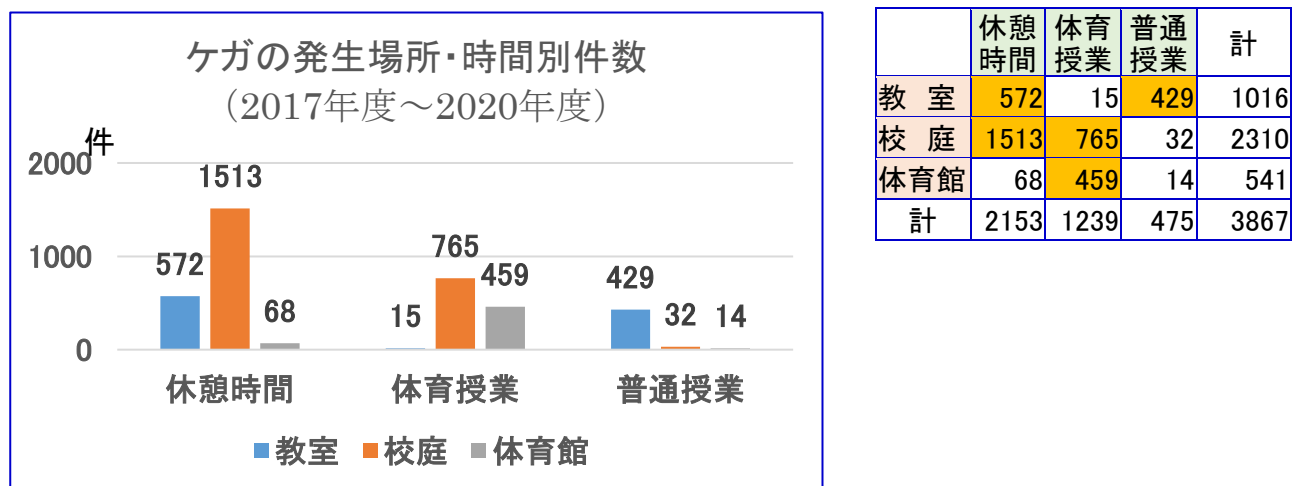
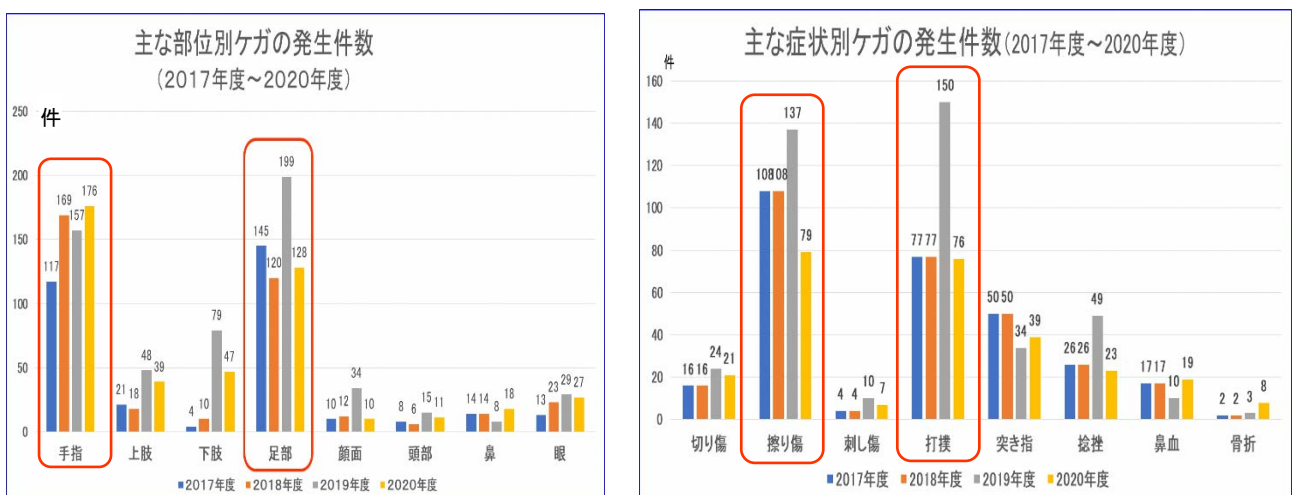


図 3-11・12 身体のけが けがの発生状況⑥（主な部位別、症状別発生件数）



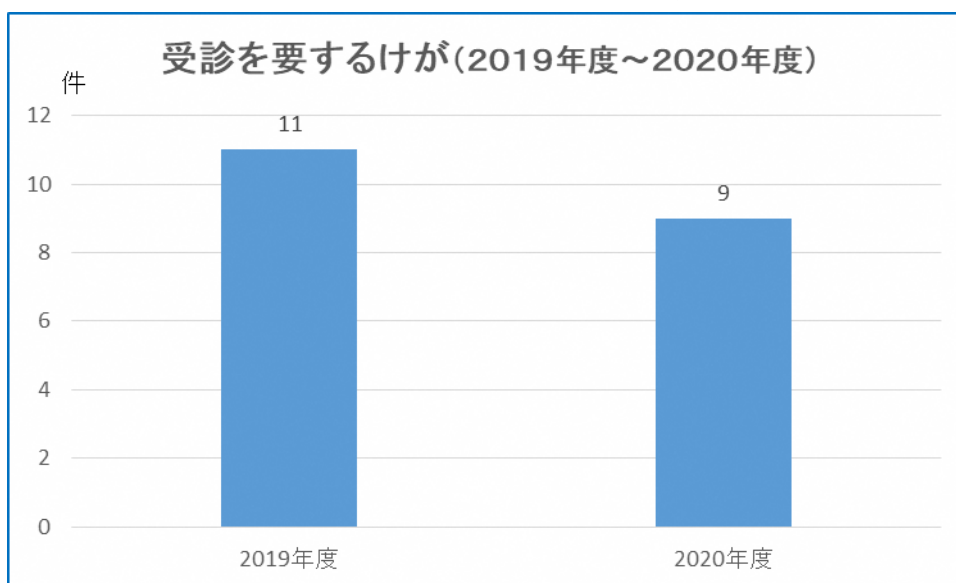
2019年度の擦り傷や打撲の発生件数が多かったのは、運動会競技のムカデ競走の練習時に転倒し、擦り傷や打撲の発生件数が例年に比べて多くあったことが原因と考えられます。また、練習の時間が十分ではなかった障害物競争での転倒によるけがも多かったと考えられます。

2 通院を要するけがの発生状況（「災害共済給付データ」より）

通院を要する症状のけがについては、「災害共済給付データ」として収集をします。

- ※ 「災害共済給付」とは、児童・生徒が学校の管理下で「けが」などをした時に、保護者に対して給付金が（災害共済給付）支払われる制度です。「けがの状況、種類や原因」について記録し、3ヶ月に1度、集計・分析をしています。

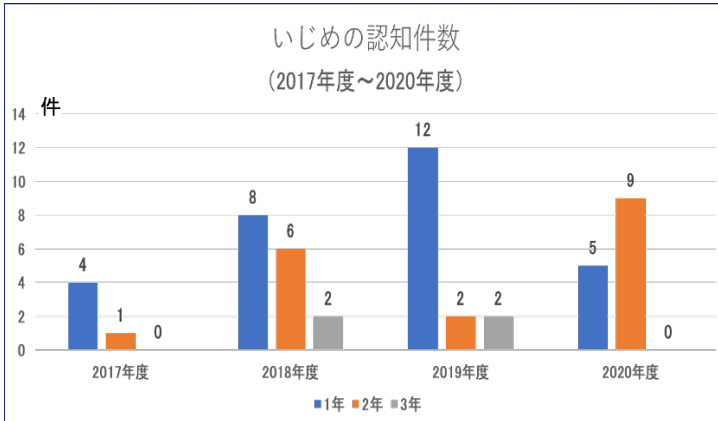
図 3-13 通院を要するけがの発生件数（「災害共済給付データ」より）



- ※ 最近では「子ども医療証」の普及により、保護者の方に「災害給付制度」について説明をしても、実際に申請されるケースが減っている傾向にある。災害共済給付データとして挙げられる発生件数以上に、受診をしているケースは多いと考えられます。
- ※ 「子ども医療証」は、生徒の医療費の保護者負担を無償とする証明書です。

3 いじめによる心のけが（「いじめアンケート」「心のアンケート」より）

図 3-12 心のけが いじめの発生状況①（いじめの認知件数）



身体的に危害を加えるなどのいじめではなく、対面や SNS における悪口等のいじめが多い傾向にある。
相手の気持ちを慮ることができていないという、精神的未熟さの結果であると分析する。

「豊島区いじめ実態調査」（2017年度～2020年度より）

図 3-13 心のけが 生徒会による「悩み事アンケート」（2020年度）

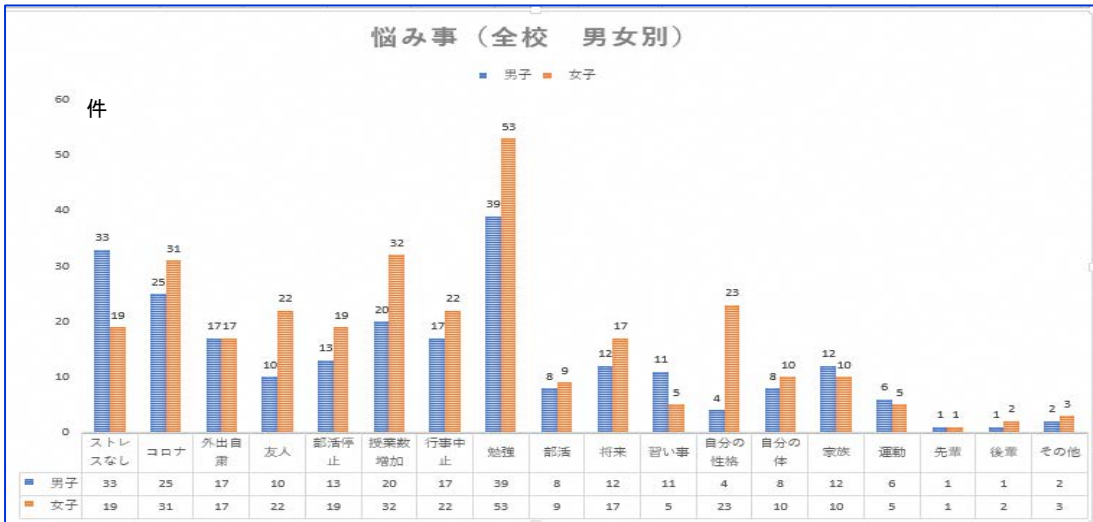
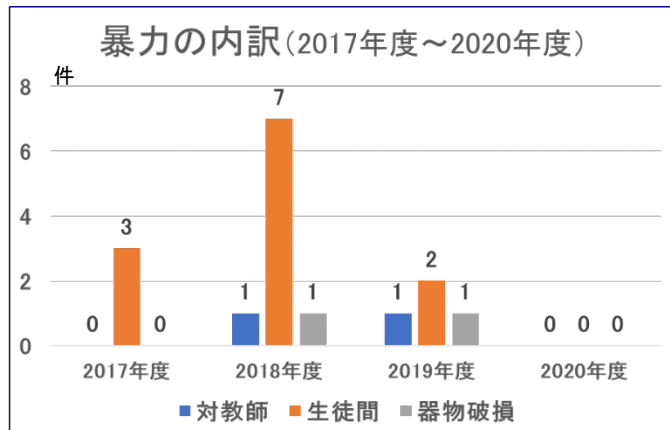
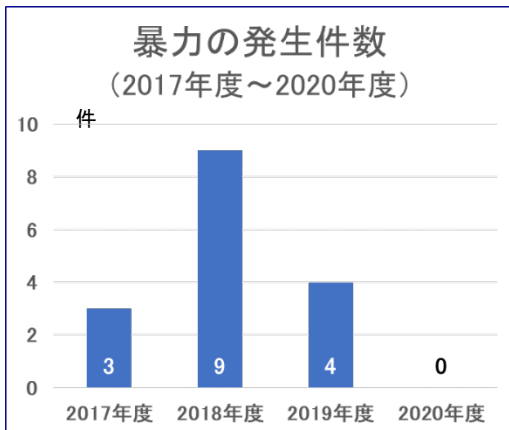


図 3-14 心のけが・暴力の発生状況



「豊島区問題行動調査」（2017年度～2020年度より）

第4章 重点的・優先的に取り組むべき問題点

第3章「校内でのけがの発生状況」で述べた安全診断、および、諸会議での報告・情報共有された内容から、以下を重点的・優先的に取り組む課題として設定しました。

重点的・優先的に取り組む課題

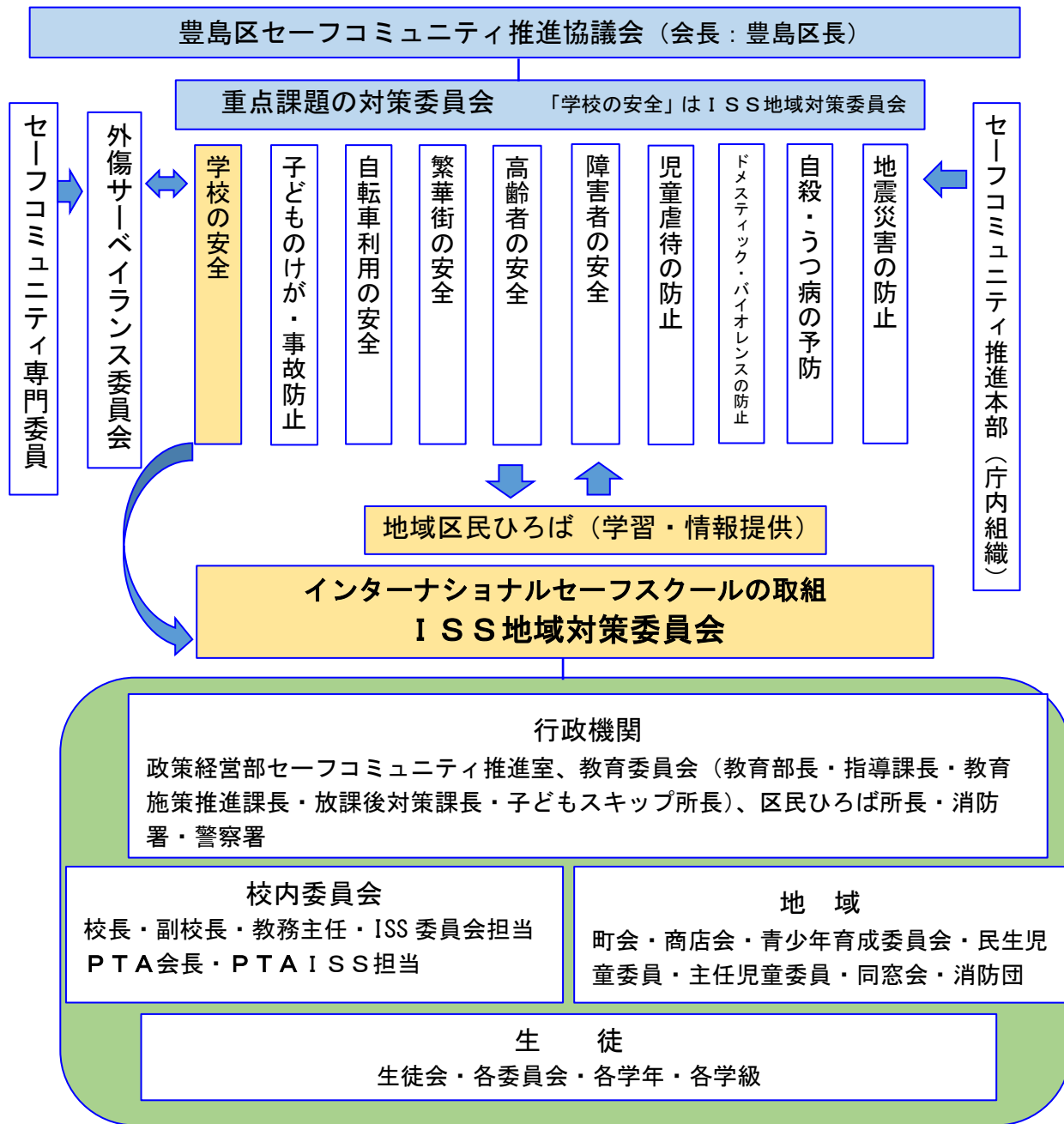
		問題点	根拠となるデータ
体のけが	学校内	校舎内 ①廊下で出合い頭にぶつかり骨折 ②雨の日の階段が滑る ③体育館遊びでのケガ ④技術の半田ごてによるやけどなど、 実験・実習時のケガ ⑤体育授業のマット運動によるケガ	図3-7・8 図3-9・10
		校舎外 ⑥休み時間の校庭でのケガ ⑦運動会練習時のケガ	図3-7・8 図3-9・10
	学校外	通学路 ⑧通学路でのケガ ⑨車道を歩く	図3-8
		地域 ⑩自転車の交通安全	図3-8
心のけが	学校内	・部活動でのトラブル ・友人関係のトラブル ・いじめ、嫌がらせ	図3-12・13
	学校外 (家庭・地域)	・不登校生徒 ・友達、家庭での人間関係 ・習い事 ・受検	図3-12・13

指標1

教師、子ども、事務・技術スタッフ、保護者の協働を基盤とした安全向上のための運営体制が整備されている

1 ISSの推進組織

図5-1 セーフコミュニティ推進協議会組織図



上図のように、豊島区セーフコミュニティ推進協議会の重点課題の対策委員会の一つに「学校の安全」があり、それを受けてISSの取り組みを行っています。

図からも明らかなように、学校だけでなくISS地域対策委員会を中心に行政や地域の協力も得ながら、活動を進めています。

2 校内の ISS 推進組織

(1) 地域対策委員会 (図5-2)

地域代表を委員長として、町会、民生・児童委員、青少年育成委員、PTA 役員、目白警察署、池袋消防署、豊島区教育委員会、学校で構成しています。

年に数回、委員会を開催して、本校の ISS 活動に対して、情報共有や意見交換をしています。



(2) 校内 ISS 委員会

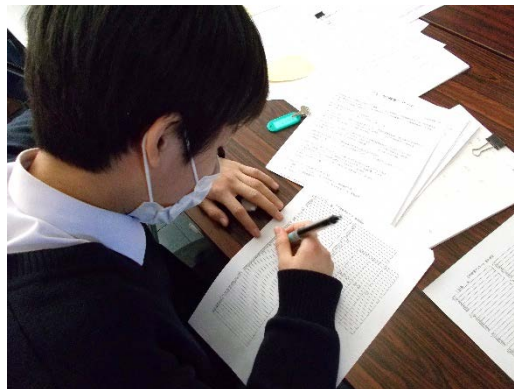
ISS 推進委員会 (校長・副校長・ISS 委員長・教務主任・生活指導主任・進路学習主任・学年主任・養護教諭) が中心となり、ISS の取り組みの進行管理や成果の検証などを行っています。生徒の活動の企画・運営などは、生活指導部が ISS 推進委員会の方針を受けて、ISS 活動を推進します。

(3) 生徒会組織

生徒会本部を中心として、以下のような取り組みを行いました。

生徒会本部	安全安心の呼びかけ 挨拶運動 心のアンケート実施・集計
学級委員会	マスク着用の呼びかけ 乱暴な言葉遣いの禁止の呼びかけ
生活委員会	遅刻防止の呼びかけ 正しい服装の徹底
保健委員会	給食喫食前後のマスク着用徹底の呼びかけ
放送委員会	昼休みの安全な生活のための流す曲の工夫
給食委員会	給食中のおしゃべり禁止の呼びかけ ZERO ストップ運動ポスター作成
美化委員会	環境美化ポスターの作成 個人ロッカーの整理整頓の呼びかけ
図書委員会	ISS 関連の書籍の特設コーナーの工夫

(図5-2・3
「生徒会各委員会
による活動」)



(4) PTA

PTA 総会で選ば

れた役員と各委員会が中心となり活動を行います。その中で、会長・副会長は ISS 地域対策委員会にも出席しています。



*本部役員～年間活動計画の作成 各委員会の活動のとりまとめ ISS 地域対策委員会の参加

*学年代表委員会～学年 PTA 活動のとりまとめ

*広報委員会～ISS の取り組みを PTA 広報誌で周知

*校外委員会～校外パトロールの実施

*役員選考委員会～次年度の役員の選考

本校の安全教育・ISS 活動は、文部科学省・東京都教育委員会・豊島区教育委員会の方針に基づいて行われています。

文部科学省

「学習指導要領(総則)」(令和 29 年告示)

「生きる力をはぐくむ学校での安全教育」(平成 31 年 3 月)

- ・生涯にわたって健康・安全で幸福な生活を送るための基礎を培う。
- ・進んで安全で安心な社会づくりに参加し貢献できるような資質・能力を育てる。

東京都教育庁

「安全教育プログラム」(令和 2 年 3 月)

- ・危険を予測し、回避する能力や、他者や社会の安全に貢献できる資質や能力を身に付けさせる。

「いじめ総合対策第二次」(平成 29 年 2 月)

豊島区

「豊島区教育ビジョン2019」(令和元年9月)

- ・危険を予測し、回避する能力及び安全・安心な環境づくりに貢献できる資質・能力を育成する。
- ・自己や周囲の人々の安全に配慮した行動をとる子供を育成する。
- ・進んで安全で安心な社会づくりに参加し貢献する子供を育成する。

1 豊島区の施策

豊島区教育ビジョン2019— 豊島区教育振興基本計画（第Ⅱ期）—

【基本方針6】 教師力の向上と魅力ある学校づくり

基本施策3 安全安心な学校づくり

各学校等では、教科等で実践される安全教育の充実を図ることにより、幼児・児童・生徒に危険を予測し回避する能力及び安全・安心な環境づくりに貢献できる資質・能力を身に付けさせる必要があります。自己や周囲の人々の安全に配慮した行動をとるとともに進んで安全で安心な社会づくりに参加し貢献する子供に育成していくことが重要です。

施策（1）安全・安心な教育環境の推進

■方向性

安全マップや防犯ブザーの配布、防犯マニュアルの整備や、防災訓練などの取り組みを継続するとともに、警察と区が連携したりリアルタイムの情報発信や、近隣区市町村と連携した広域的な情報共有における仕組み、区民との連携などについても検討を進め、子供たちの安全・安心の取り組みを進めます。また、豊島区が推進している「セーフコミュニティ」構想をもとに、区内小・中学校の全校におけるインターナショナルセーフスクール（ISS）を推進します。

2 学校の方針

（1）学校経営方針

【教育目標】

明日を担う人間性豊かな生徒を育成するために、次の目標を定める。

○深く考え、自ら学ぶ生徒 ○心あたたかで、礼儀正しい生徒 ○健康でたくましい生徒

【校訓】

信……信頼し、信頼される誠の人になろう。
望……明日に向かって全力をつくす人になろう。
愛……人を愛する勇気ある人になろう。

目指す学校：魅力と活力にあふれ、保護者や地域から信頼される学校

豊島区教育委員会の方針を受け安全・安心な教育環境づくりに努めています。

人権尊重の精神を基調とし、人に優しく、たくましく、主体的に生きる生徒の育成に努め、魅力と活力にあふれ、保護者や地域から信頼される学校を目指しています。

（2）生徒活動のスローガン

豊島区セーフコミュニティ インターナショナル・セーフスクール推進校

みんなで作る 安全・安心な学校

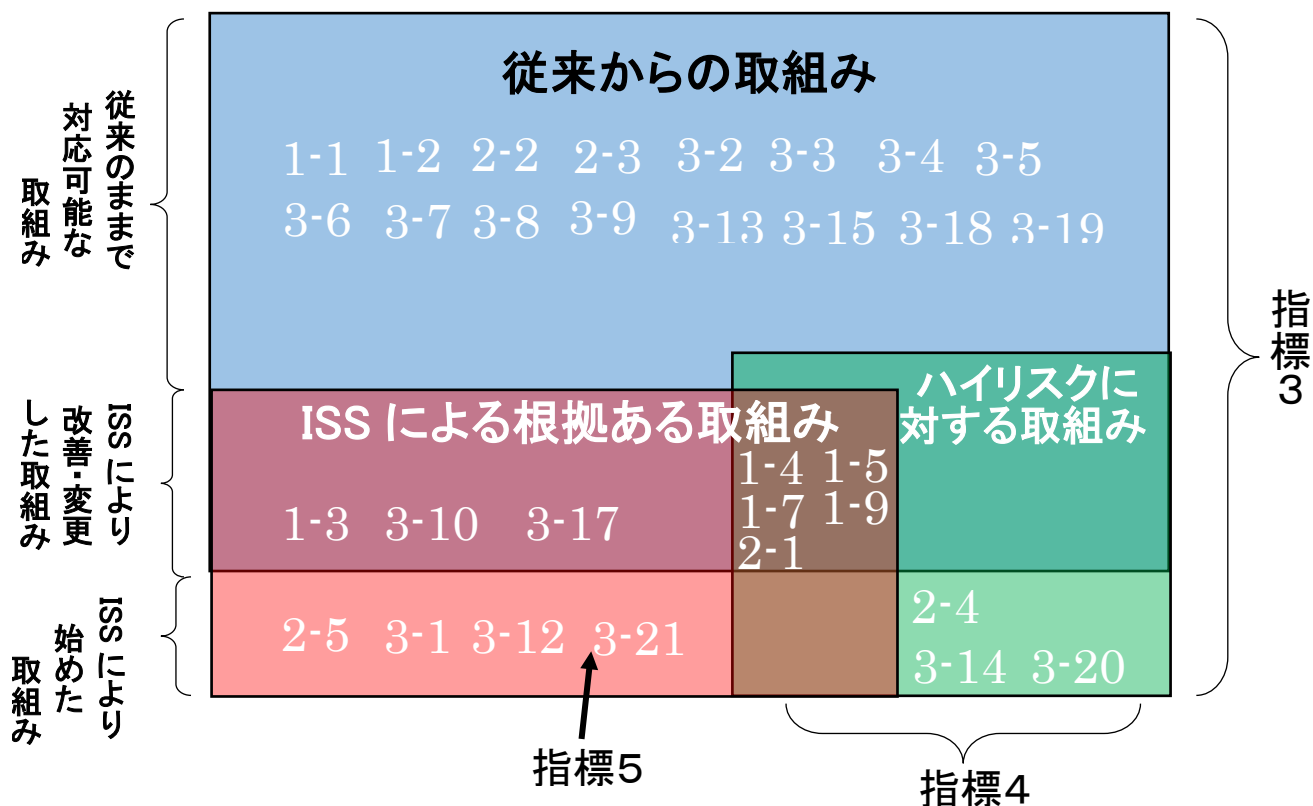
目指せ！笑顔あふれる千川中学校

豊島区立千川中学校

指標3

長期的・継続的なプログラムによって、すべての性別・年齢、環境、状況がカバーされている

指標3～5の関係



指標3 すべての学年・教員、場所等がカバーされている

■ 指標3 ■ 指標4 ■ 指標5

		1年	2年	3年	教職員	家庭・地域
身体的側面	学校内	校舎内	3-1 生徒会によるゼロストップ運動		1-4 配膳時の保護者による手指の消毒、校内消毒、教職員による消毒	
		校舎内	1-5 生徒会による消毒活動			
	校舎外	3-22 生活委員会によるボール管理		1-2 体育授業中の事故防止指導、補助教員の配置		
	学校外	通学路	3-9 スケアード・ストレイト			
その他		3-14 防災ジュニア訓練				
心理的側面		2-2 生徒会のあいさつ運動		2-5PTAのあいさつ運動		

ISS 活動内容整理表

1 環境改善

1-1	安全点検（月1回）
1-2	けがの発生データの共有
1-3	ISS 取組みの歩みの発信（ISS ゾーン）
1-4	保護者・教職員による教室の消毒
1-5	生徒による教室の消毒
1-6	新しい健康観察
1-7	新しい教職の指導
1-8	カーブミラーの設置
1-9	階段のすべり止め設置

2 規制・ルール・人間関係づくり

2-1	ソーシャルディスタンスマーク
2-2	あいさつ運動
2-3	心のアンケート
2-4	昼休みのルールづくり
2-5	PTA のあいさつ運動

3 教育・啓発

3-1	生徒 ISS 集会
3-2	食育活動
3-3	救急救命法研修
3-4	安全指導（月1回）
3-5	緑の羽募金活動、赤十字募金活動
3-6	養護教諭・スクールカウンセラーによる心のサポート
3-7	いじめ防止対策委員会
3-8	道徳授業研究
3-9	スケアード・ストレイト
3-10	親子通学路点検
3-11	新型コロナウイルス感染症防止の啓発活動
3-12	けが MAP の作成
3-13	給食委員会 ZERO STOP 運動
3-14	防災ジュニアスタッフ訓練
3-15	セーフティ教室
3-16	ISS 地域対策委員会
3-17	いじめ対策講話
3-18	地区別集団下校
3-19	交通安全講話
3-20	長期休業明けの担任とのカウンセリング
3-21	ISS ミニポスターの作成
3-22	生活委員会によるボールの管理

指標3の取組み紹介

図3-1 防災訓練



3-14 防災ジュニアスタッフ訓練
消防団の方から指導を受ける

図3-2 消毒活動の徹底(コロナウィルス感染症防止)



1-4 保護者・教職員による消毒
1-5 生徒自身による消毒

図3-3 スケアード・ストレイト



3-9 交通事故発生の危険について実技を通して、警察官から指導を受ける。

図3-4 生徒会のあいさつ運動



2-2 生徒会役員が登校時にあいさつ運動を実施する。

○ハイリスクの捉え方、理由と対策の概要

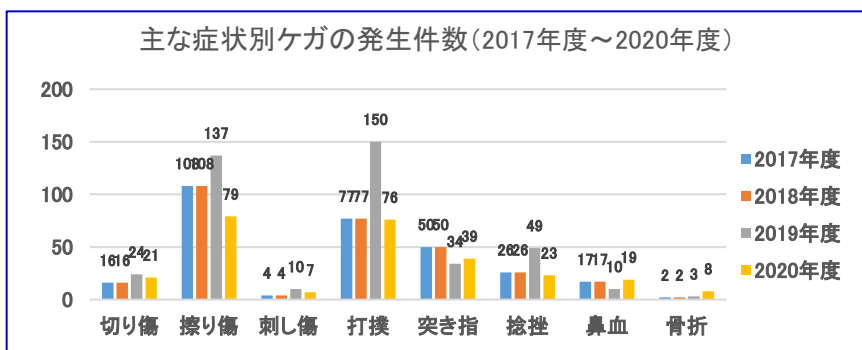
ハイリスク		根拠	取組
ヒト	生徒	2-4	遊びのルール作り
	生徒	3-20	夏休み明けの二者面談
場所	体育館	2-4	遊びのルール作り
		3-20	二者面談
状況	予測不能なボールの扱い	2-4	半面ずつに場所を分け、ボールの投げる方向、走るスピードの制限
	学校生活へ不安解消、生活リズムの調整	3-20	長期休業明けの心のケア

1 遊びのルール作り

昼休みは生徒にとって思いっきり遊べる時間である。各自が自分勝手に走ったり、ボールを投げたりして、不意にぶつかる事故が発生しケガの件数の増加につながっている。そこで、学級委員会で話し合い、遊ぶ内容ごとにルール作りを行った。校庭や体育館では遊びの種類ごとに半面に分けて遊び、ボールを投げ得る方向を決め、不意にぶつかる事故の発生を抑えることが出来た。また、ケガにつながるような遊びはやめようと呼びかけを行ったところ、大勢がいる場所では全力で走らなくなり、遊びの中で周りの友達に気を遣うようになり、昼休みのケガの件数の減少につながってはいないが、大きなケガの件数は減少した。



昼休みの遊びのルール作り



2 夏休み明けの二者面談

夏休み明けの二者面談では、夏休み中の思い出や2学期への決意を話し合うと共に、2学期のスタートがスムーズになるように、学校生活への不安や心配事の有無を確認し相談に乗ったり、生活リズムの調整が出来るようにアドバイスを行っている。2学期の始めに心のケアを行うことで、2学期から不登校になる生徒は非常に少ない。

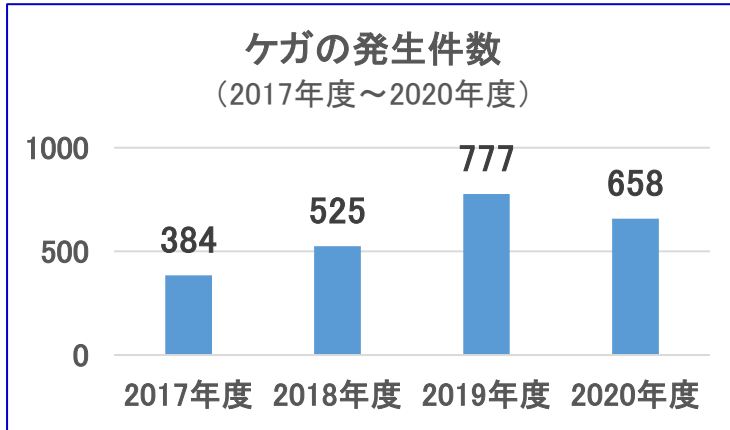


夏休み明けの二者面談

1 環境改善

けがの発生状況をはじめ、課題を共有して意識を高め、課題解決に取り組んでいくために情報発信や施設・設備等、環境の改善に取り組んでいます。

図 3-1 身体のけが けがの発生件数①（再掲）



1-2 けがの発生データの共有
3-12 <けがマップの作成>



1-3 ISS 取組みの歩みの発信（ISSゾーン）

毎日の職員打ち合わせや諸会議等で報告された内容に基づいて、設備の改善も進めています。



1-8 階段と廊下での出会い頭での衝突事故を契機にミラーを設置しました。



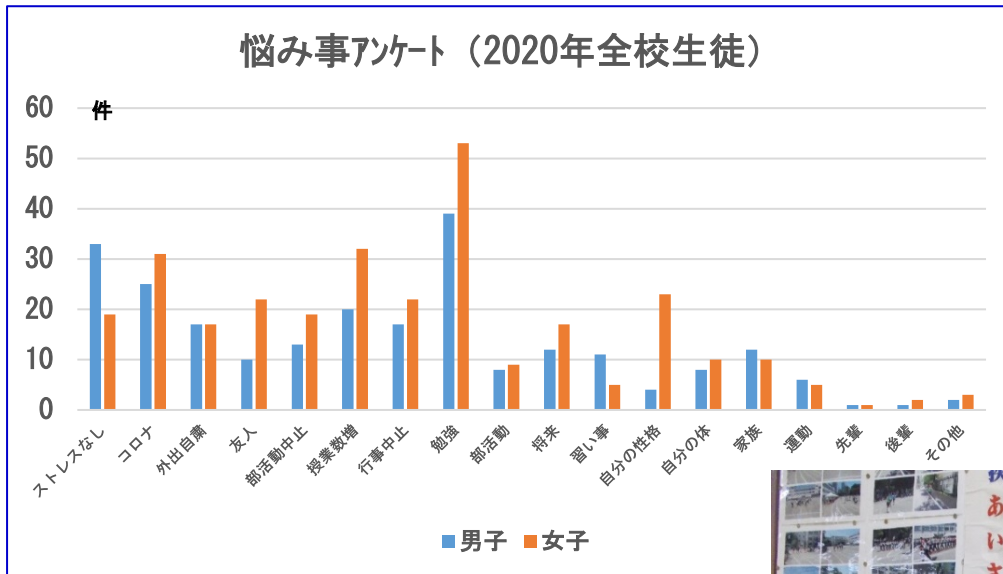
1-9 階段が滑りやすく、事故につながるのと来校者の指摘により滑り止めをつけました。

2 規則・ルール・人間関係づくり

(1) 生徒会役員が取組

生徒の自主的な活動の中心として、生徒会役員が「目安箱」の利用率向上を目指した取り組みや心の健康アンケート実施といった取組を実施してきました。取組の結果は生徒会誌にて共有しました。皆が抱える不安を互いに知ることで、他者を気遣い合う気持ちを育てました。

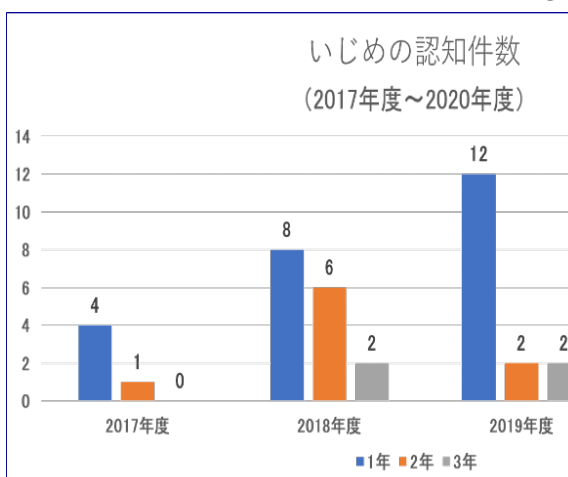
図 3-13 生徒会による「悩み事アンケート」(再掲)



(2) いじめ対策講話

「いじめ」問題に関する認識を深め、互いに思いやる心や行動力を高めるために専門家による講話を活用した学習にも積極的に取り組んでいます。

図 3-12 心のけが いじめの発生状況① (再掲)

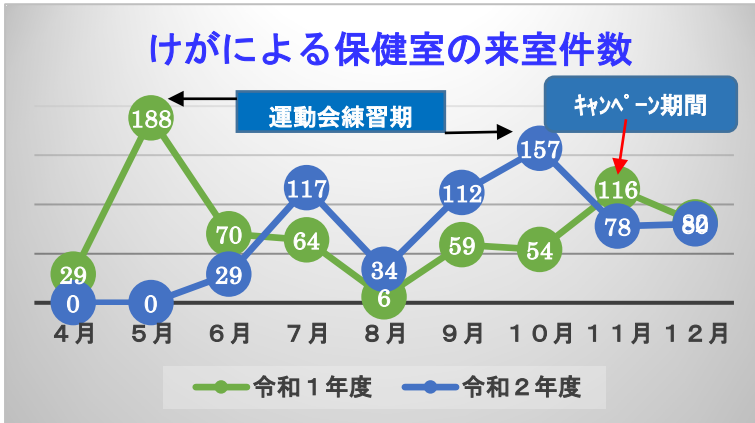


3-17 行政書士による法講話（「いじめ」は犯罪？）

3 教育・啓発

(1) 各委員会による取組み

月1回の専門委員会では、1か月の取組の様子や成果を振り返り、次の1か月に向けて取組改善のための話し合いをしています。安心・安全な学校を目指して掲示物等も作成しています。



ほけんだより キャンペーン号 NO.1

令和2年11月4日 保健室&保健委員会

11月2日(月)～11月30日(月)まで、体調管理とケガを予防しよう！キャンペーンを実施します。キャンペーン期間中は、皆さんに心身の健康について考えてもらえるような情報発信していきたいと思えます。

さて、本日は皆さんに許可度からの保健室の利用状況をお伝えします。

【ケガ】

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
昨年度	29	186	70	64	6	59	54	116	82	51	58	併校	775
今年度	併校	併校	29	117	34	112	157	3	-	-	-	-	452

【体調不良+その他(マスクが欲しい・相談したい等)】

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
昨年度	28	76	61	68	4	71	61	113	128	75	31	併校	718
今年度	併校	併校	25	153	22	77	89	2	-	-	-	-	368

ケガは体育中の発生が1番多く、特に運動会前は保健室の利用が増加します。また、球技で突き指してしまうケースも多く見受けられます。体調不良は季節の変わり目や、寒い季節の風邪症状での来室が目立ちます。その他、寝不足や疲れの蓄積、前日欠食が原因と思われる体調不良が多いように感じています。

ほけんだよりキャンペーン号ではケガや病気の予防についても情報を載せていきますので、日頃の体調管理に役立ててくださいね。

保健委員会

体調管理とケガ予防をしよう！キャンペーン

期間：11月2日～11月30日

【キャンペーン目的】

- ※体育館からの保健室の来室件数は継続する。予防であるケガや体調不良による保健室利用が多かったことから、皆さんに日頃の予防を見逃さない、適切な生活の中で怪我や体調不良を未然に防ぐためのキャンペーンを実施することを目的とした。
- ※キャンペーン期間中、来室が少なかった上位クラスには賞状と、1位のクラスには賞状として「けが予防賞」を贈ります！
- ※来室が最も多い保健室委員が「保健室利用のヒーロー」に選ばれます。

【お願い】

- ※お申し込みや相談したいことで実施した内容はキャンペーン内限定です。届いたことあるから保健室を利用してください。
- ※保健室の利用状況を「ほけんだより」に掲載させていただきます。学校に実名が掲載してしまったりした場合や、体調不良を隠して保健室に行かないでください。

ほけんだより キャンペーン号 NO.2

令和2年11月5日 保健室&保健委員会

*** 体育科！ ***

住母家先生と佐藤先生にケガの予防について聞いてみました！

体育や部活動でのケガ予防について、体育科の先生方からアドバイスをいただきました。

【大切なこと・その1】準備運動・ストレッチ！

体育の授業のはじめには必ず準備運動を行いますよね。みなさん、真剣に準備運動を行っているでしょうか？準備運動をしっかり行うと、固くなった筋肉がほぐれる以外にも、可動域(体の関節を動かせる範囲)が広がってケガの予防につながります。授業で扱う種目によって、先生方から入念に行なった方がいい準備運動の指示がありますよね。しっかり指示を聞いて、行うようにしましょう。

【大切なこと・その2】先生の指示・注意点をしっかりと聞きましょう！

その日の種目で大切なポイントや、ケガをしないようにするための細かな注意点を必ずお話ししてください。皆さんと先生の指示を聞いていけば、間違った行動をせずに、落ちついて実践に取り組みます。

【大切なこと・その3】ケガをしたら、体育科の先生に必ず報告をしましょう！

ケガをしたまま体育の授業を継続して続けられることも危険です。体育科の先生にケガの報告をしないで、保健室に行くことも皆さんの安全管理ができません。必ず報告してから保健室に行くようにしましょう。

1-3、3-21 保健委員会によるけが予防キャンペーン

(2) 交通安全講話

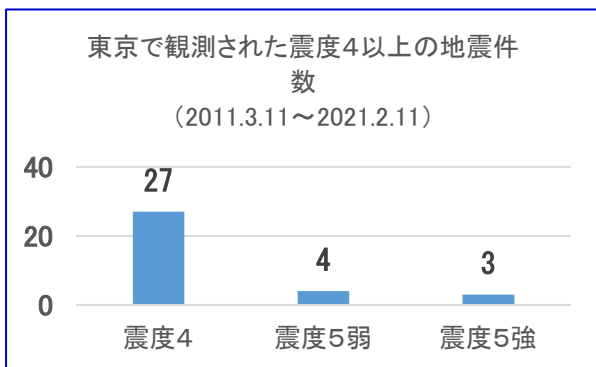


目白警察から、講師をお招きして、交通安全について考えました。講師の方は、パネルや映像を用いて、自転車の安全な乗り方や交通事故の防止法などについて、分かりやすく生徒たちに説明してくれました。

3-19 警察官による交通安全講話

(3) 災害対策

図 5-1 地震の発生件数



2011年3月11日の「東日本大震災」以降、東京で観測された震度4以上の地震は34件あります。1年間の平均は3件以上となります。震度3以下の地震も含めると、近年再び地震の発生が増えてきています。30年以内には確実に発生すると言われている首都直下型大規模地震への備えは、全児童・保護者・地域住民をすべてにとって重要な課題です。



3年生が、豊島区防災危機管理課の方から地震などの災害が起きたときの避難所での行動について学び、実際に避難所を設営しました。

3-14 豊島区防災危機管理課職員による防災活動学習

防災ジュニアスタッフは、「D級小型ポンプ」の操作法を、地域の消防署・消防団から指導を受けています。大地震などに伴い、地域で火災が発生した際には、地域の一員として初期消火活動を実施し、減災や防災に協力できるように訓練に取り組んでいます。



3-14 防災ジュニアスタッフ訓練

1 校内のけがの記録

その日起きたけがについて、学年・組・氏名、傷病名、傷病箇所、発生時刻、場所、原因、処置内容について校務システムに記録をし、データの収集・分析をしています。また、休日の部活動や校外学習でのけが等、保健室で処置していないけがのうち、特に受診をしたけがについては本人や顧問、学年の教員から聞き取り、記録をしています。

	収集するデータや情報	コンテンツ
学校内でのけが	1. 保健室でのけがの記録 (毎月集計) 2. スポーツ振興センターの記録 (3ヶ月に1回集計)	1. けが情報 ①発生場所 ②発生(活動)時間 ③けがの種類・重症度 ④受傷者(学年・性別)
学校外(家庭・地域)でのけが	3. 保健室でのけがの記録	

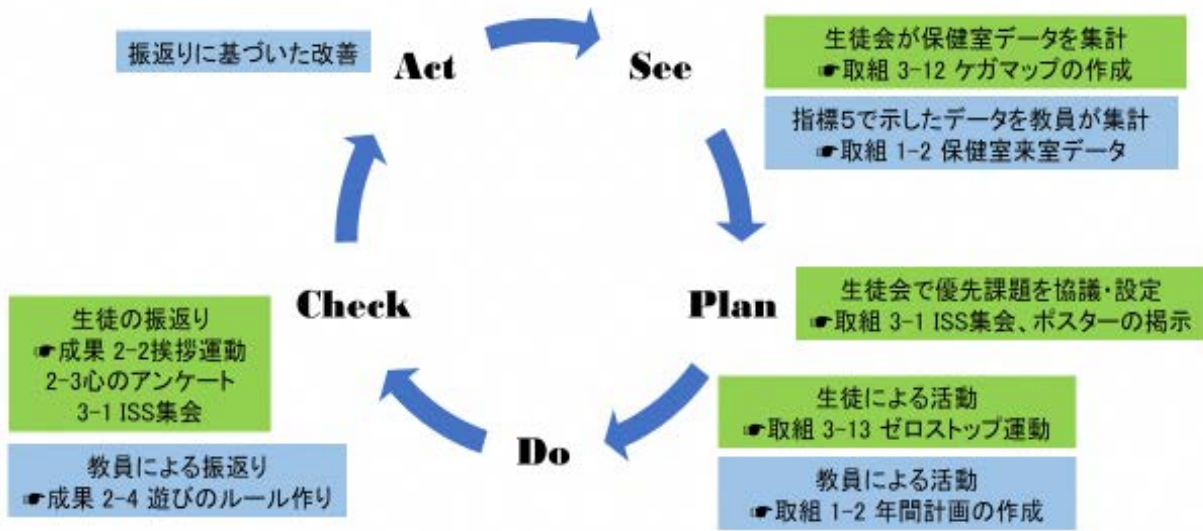
利用日	曜日	所属	氏名	性別	場所	場合	部位	症状
20/06/02	火	3年		男	体育館	体育授業	その他	手指
20/06/03	水	2年		女	その他	家庭管理下	擦り傷	手指
20/06/03	水	3年		男			その他	
20/06/03	水	3年		男	その他	家庭管理下	虫刺され	足部
20/06/05	金	3年		女			虫刺され	上肢
20/06/08	月	2年		男			擦り傷	足部
20/06/10	水	2年		女	その他	家庭管理下	擦り傷	手
20/06/10	水	3年		男	教室	休憩時間	刺し傷	手
20/06/11	木	1年		女	その他	家庭管理下	火傷	手指
20/06/11	木	2年		男			その他	
20/06/11	木	2年		女	校庭	体育授業	鼻血	鼻
20/06/12	金	2年		女	その他	家庭管理下	擦り傷	手
20/06/15	月	1年		男	教室	普通授業	擦り傷	耳
20/06/15	月	2年		女			鼻血	鼻

2 いじめ訴え・発生件数の収集・記録

学期に1回、全校生徒を対象に、学校生活を振り返って、アンケート調査を実施し、いじめの発生件数等を収集しています。

	収集するデータや情報	コンテンツ
心のけが	1. 心のアンケート 2. いじめアンケート	1. いじめ情報 ①相手 ②内容 ③時期

ISS 推進委員会のデータ収集、対策の立案を受け、プログラム全体の進行管理を地域対策委員会が行います。成果指標に基づいて、効果を評価し、改善します。



セーフコミュニティ推進協議会
《セーフコミュニティ活動全体評価》



日本セーフコミュニティ推進機構
《外部評価》

○地域内、国内、国際的なネットワークへの参加

	市内・区内	国内	国外
2019年	池袋本町小学校現地審査 防災ジュニアスタッフ訓練 豊島区合同認証式 ISS 地域対策委員会 スケアード・ストレート	厚木市立清水小学校 I S S 現地審査会	
2020年	防災ジュニアスタッフ訓練 ISS 地域対策委員会 デート DV セーフティー教室		
2021年	防災ジュニアスタッフ訓練 防災教育	秩父市立秩父第二中学校 I S S 現地審査会 I S S 事前審査会	

新型コロナウイルス拡大予防の影響から、様々なネットワークへの参加が多く出来なかったが、区内を中心に感染症対策を行い I S S ネットワークへの参加を行った。今後は区内の取り組みをより充実させ、国内外のネットワークへの参加を増やしていく。

1 防災ジュニアスタッフ訓練

生徒は防災ジュニアスタッフに所属し年に4～5回の訓練を、区内消防署や地域消防団の方から受けている。そこではD級可搬ポンプの訓練やAED訓練をしている。非常時には地域高齢者の方より、中学生の方が活躍が期待され、中学生は守られる側から守る側になれるように訓練に参加している。千川中では10年に渡り先輩から後輩へと訓練が受け継がれている。



2 スケアード・ストレート

スタントマンの方による事故の再現を見ることで、事故の恐怖を間近で感じ、自分自身の交通安全に繋げている。生徒が実際に危険な自転車の運転をし、自転車ルールの再確認をした。



3 厚木市立清水小学校 I S S 現地審査会

厚木市立清水小学校の I S S 現地審査会では、3回目の認証を目指す先進校の取り組みを見学できた。児童や教職員、地域の方々の安全・安心に対する意識の高さを感じられる発表で、I S S ゾーンの充実や、児童1人1人が自信をもって自分の取り組みの発表を行っていて、千川中の今後の取り組みの参考になる I S S 現地審査会であった。



1 現時点での取り組み

- (1) 一部の生徒、教員、保護者のみで進められている現状がある。
- (2) 国内外の ISS 認証校との交流が十分ではない。
- (3) 生徒や地域の防災意識を取り組（ボランティアの推奨、防災教育の取組）が十分ではない。
- (4) SNS に関するトラブルが増加傾向にある。
- (5) 心の安全を確保するためにプログラムを充実させていく必要がある。

2 今後の方向性

- (1) 生徒が自ら危険予測し回避する力を育成し、生徒が主体的に自他の安全を守る活動できるようにしていきます。
- (2) 校内のけがや事故データなどの根拠となるデータを基に、安全システムを構築して、校内のけがの件数を減らしていきます。
- (3) いじめの発生件数を減らすために、あいさつ運動の輪を広げるとともに、生徒のソーシャルスキルの向上を目指していきます。
- (4) 運動会における競技の再検討や、生徒の防災意識を高めるなど、ハイリスクにおける対応を強化していきます。
- (5) 地域防災の拠点として、学校・家庭・地域の連携を深めていきます。
- (6) SNS トラブルに対応する力を養うため、情報教育を推進していきます。
- (7) ISS における小中連携を充実させると共に、学区、地域、豊島区全体でのセーフコミュニティを目指していきます。

3 具体的な取り組み

- (1) 呼びかけの教科など生徒 ISS 委員会を活性化し、生徒主体のセーフスクールの取組を進めます。
- (2) 教員全体で、根拠となるデータの分析、安全システムの構築を今後も行っていきます。
- (3) 生徒会・教職員の双方で、先行して承認を受けたさくら小学校、本校と平行して承認に向けた取組をしているさくら小学校との連携を深めます。
- (4) 生徒の防災意識を高めるため、防災ボランティアへの参加を推奨します。
- (5) SNS に関わるトラブルに対応する力を養うため、総合的な時間で地域の人材や企業の力を講習会などで有効に活用します。